



# 横尾ゆきひで

# 県議会だより

VOL.12 2010年 8月8日発行

【横尾ゆきひで事務所】

- 所在地 妙高市朝日町1-7-23  
電話 : 0255-70-5211 FAX : 0255-70-5212  
URL : <http://yokoo-yukihide.jp>
- 開所時間帯 10:00~16:00  
(土曜、日曜、祝祭日を除く)



夕日に映える日本海 (5/30 瀬波海岸にて)

今年の夏は、全国各地で猛暑による熱中症被害が多発しています。また、天候不順による局地的な豪雨は、過去の記録を塗り替え甚大な被害をもたらしています。被災地の皆さんには、心よりお見舞い申し上げます。

さて、先に行われました第22回参議院議員選挙は、昨年8月の衆議院選挙で民主党が歴史的な政権交代を受けて最初の国民の審判と言う大変重要な意味をもった選挙でした。しかし、相次ぐ総理の交代、政治とカネ問題、国防に係る沖縄県普天間基地問題等をはじめ、直前での消費税問題が争点となり、国民の審判は政府民主党に対し大変厳しいものとなりました。

衆参のねじれ現象で、国際社会から孤立したり、国民生活が疎かになることは、絶対避けなければなりません。ここは、党派を超えて財界も一丸となって、難局を乗り越える努力と行動が大切です。

先の県議会6月定例会では、22年度一般会計補正予算総額1億4,538万1千円の増額補正が可決されました。大半が北陸新幹線開業に伴う、並行在来線の経営主体を設立するための出資金です。

泉田県知事は、開業準備のための諸課題が山積する中で、沿線3市長から早期設立の要望を受けて今議会には提案しましたが、糸魚川市議会では県当局の説明が不十分であるとして足並みがそろわないことに、誠意をもって理解を求めていくことを明言しました。

複雑な問題を多く抱えている現状を考えますと、早期の会社設立により自らの問題として、取り組むことが大切と思います。結びに、皆様方のご健勝をご祈念申し上げまして、議会報告とさせていただきます。

## 県議会6月定例会から (会期：平成22年6月9日～6月25日までの32日間)

### ●前議会以降の県政の主な動きについて(知事説明の項目のみ記載)

- |                      |                              |
|----------------------|------------------------------|
| (1) 新政権の発足について       | (8) 福祉・医療の確保について             |
| (2) 本県の経済情勢と雇用対策について | (9) 個を伸ばす教育について              |
| (3) 口蹄疫への対応について      | (10) 北東アジアとの交流の拡大について        |
| (4) 地域主権に向けた取組について   | (11) 原子力発電所について              |
| (5) 国の新年度予算について      | (12) 新潟県「夢おこし」政策プランの施策評価について |
| (6) 交通問題等について        | (13) 拉致問題について                |
| (7) トキ死亡事故と今後の対応について |                              |

### 【6月定例会の審議結果】

- 議案18件のうち、
  - ・一般会計補正予算1件は採決の結果、賛成多数で可決。
  - ・その他、条例改正7件、事件議決7件、人事関係3件(人事委員会委員、監査委員、収用委員会委員)は、全員賛成で可決または同意。
- 請願・陳情12件のうち、
  - ・継続審査とすべき請願は3件。陳情5件。
  - ・不採択とすべき陳情は1件。
  - ・保留とすべき陳情は1件。
  - ・採択とすべき陳情(子宮頸がん予防ワクチン接種の公費負担、発声障害の認知と治療の保険適用の各意見書)2件。
- 議員発議による意見書12件のうち10件を可決されましたが、この中に「拉致事件の早期解決と北朝鮮への制裁強化」「日米安全保障条約にかかる沖縄米軍基地問題」では、自民党会派と民主にいがた会派で調整がつかず、同類の意見書が同時に提案される事態となりました。

平成22年度 新潟県議会6月定例会の議会情報の詳細は、下記のURLからご覧いただけます。

【<http://www.pref.niigata.lg.jp/gijichosa/1273528885070.html>】

### 【議会構成が新しくなりました】

- 【議長】 小野 峯生 (村上市・岩船郡選出)  
 【副議長】 小川 和雄 (糸魚川市選出)  
 【議会運営委員会】 (以下、◎は委員長、○は副委員長)  
 ◎委員長 金谷 国彦 ○副委員長 小林 一大  
 【常任委員会】
- ・総務文教委員会 (定員14名) ※私は、この委員会の所属です。  
◎片野 猛 ○市村 孝一
  - ・厚生環境委員会 (定員13名) ※現員12名  
◎西川 洋吉 ○楡井 辰雄
  - ・産業経済委員会 (定員13名) ※現員12名  
◎佐藤 純 ○富樫 一成
  - ・建設公安委員会 (定員13名)  
◎小林 林一 ○小島 隆
- 【特別委員会】
- ・少子高齢・青少年対策特別委員会 (定員17名) ※現員16名  
◎岩村 良一 ○梅谷 守
  - ・スポーツ振興・健康づくり対策特別委員会 (定員17名) ※現員16名  
◎大淵 健 ○佐藤 卓之
  - ・地域活性化・総合交通対策特別委員会 (定員17名)  
◎佐藤 莞爾 ○皆川 雄二

【悲報】吉沢真澄県議(新潟市南区選出)が6月29日早朝、心筋梗塞で自宅にて逝去されました。6月定例会最終日の25日は、全く変わった様子もなく、突然の悲報に茫然自失の状態です。吉沢県議は57歳で合併前の白根市長。昨年8月に前県議(小野忍氏も心筋梗塞による突然死)の後を受けて、わずか8カ月の就任期間でした。執務室が私の隣で、しかも同じ地方公務員出身であり、1人区という境遇や考え方も似ていることから、毎議会2人で議案や請願・陳情、意見書などを相談していました。物静かで、思慮深く、温厚な性格で健康福祉分野に精通され、いつも教えられました。年齢的にも、脂の乗り切った時期での他界は、さぞかし残念でしょう。私も他人事と思わず、健康に最善の注意を払って、少しでも地域発展の役に立つよう努力することを誓うものです。心からご冥福をお祈りいたします。



●厚生環境委員会から(横尾)

【質問】低炭素社会実現のための重点推進として、13のリーディングプロジェクトを策定したなかで、ノー白熱電灯の全県対応の現状は。

【回答】昨年10月に県・白熱電球削減推進協議会を立ち上げた。ここには家電量販店やショッピングセンター、ホームセンター、製造メーカー、消費者団体、行政機関が参加して、省エネ型照明への切り替えについて普及啓発や情報発信に取り組んでいる。

【質問】協力店は登録制になっているようだが、現状は。

【回答】今年5月末現在で協力店380店舗、設備工事業者、建設業者、ビル管理業者など14事業者が登録している。

【質問】協力店に登録するメリットは。

【回答】具体的な得点は無いが、県のHPに相手の了承を得て記載し情報発信できる。

【質問】ノー白熱電球からLEDなど省エネ型にというが、普及先は。

【回答】公共施設、事業所、家庭などが対象です。

【質問】ある業界紙の試算では、2009年のLED市場は318億円。これが2015年には4.2倍の1,342億円と予想している。

そこで県内の商店街にある街灯を、省エネ型に切り替えれば地球温暖化対策に大変な貢献となるが、初期投資がネックとなる。補助制度の拡大や融資制度の創設などの検討は。

【回答】既設の補助制度もあるので活用してほしい。また、融資制度は所管する産業労働観光部にも伝え横断的に対応していく。

・今後の課題は、多額な初期投資対策として起債充当や交付税措置が必要。また、JRが支払う新幹線貸付料の一部に、経営分離によるJRの赤字解消分が含まれているので、これを地方に還元すべき。

・残りの貸付料も、建設費の負担割合に応じて地方に還元すべき。建設財源が不足ならば、同・運輸機構の利益剰余金や郵政資金を有効に活用すべき。

【各議員の質疑・・・抜粋】

(質問)沿線3市のうち、糸魚川市議会では反対意見があり、県の対応は。

(回答)糸魚川市議会では、経営計画が策定されていない不安や新幹線糸魚川駅の停車本数に対する懸念があると承知している。経営計画は現在開業準備委員会で策定中だが、実際経営を行う会社で地元の利益が損なわれないよう、会社に参加していただき意見を出して頂くことが望ましいと考えているので、糸魚川市議会の理解を求めていく。

(質問)開業準備委員会の経営委員会で経営計画案を策定中と聞いているが、現時点で予算計上を行い経営主体を設立することについて経緯は。

(回答)実際の事業計画は、将来の運行に責任を持つ経営者を選定した上で、地元などと調整しながら策定することになるが、先に、沿線3市長から経営主体の早期設立要望があり、また、事業計画に地元の要望を適切に反映させるには、調整に時間がかかるとして早期設立をすることとした。

(質問)出資に当たって糸魚川市では、県の説明不足との意見があるが、今後の対応は。

(回答)糸魚川市からも地元の利益を損なわれることとならないよう、会社運営に参加して意見を出していただくことが望ましいと考えているので、ご理解いただけるよう努力していく。

(質問)設立される経営主体は、開業に向けて具体的な準備と業務は。

(回答)まず、駅を増やしていくのか、運行本数や運行パターンをどうするか、更新期を迎えた車両はディーゼルか電車か、デットセクション(交流直流切り替え地点に設置される架線給電されない区間)を動かすのかなど、沿線住民とのコンセンサスが必要な事柄についての調整。その後、要員の確保、養成や諸規程の整備など、鉄道事業許可申請に向けた準備などです。

(質問)将来の経営主体に、民間事業者や地域住民の参画とは。

(回答)並行在来線は、地域の暮らしと経済を支える公共交通機関であり、積極的に参画願うことが望ましい。

●可決された補正予算の審議から  
(並行在来線の経営主体設立に伴う出資金)

【知事の提案説明・・・抜粋】

・北陸新幹線開通に伴う並行在来線の経営分離は、JR東・JR2社空の分離となり特殊性が高く、経営主体の早期設立で運行開始に向けた各種準備が必要。

・開業に向けた準備を急いできたが、沿線3市長からの早期設立の要請を受け、今議会に提案した。

・設立会社の形態は、当面は県及び沿線市の出資で設立するが、今後マイルール意識の醸成の観点から、民間事業者や地域住民からの出資も検討していく。

## 横尾ゆきひで汗かき活動記

私の活動の一部をご紹介します。詳しくは下記URLをご覧ください。  
<http://www.yokoo-yukihide.jp/>

### 【4月26日】矢代川橋架け替え工事の早期完成の要望

関係区長と妙高市建設課長と共に、県上越振興局整備部長及び道路課長に要望説明を行い、県庁において土木部長、土木技監、道路建設課長などに直接要望を行いました。土木部長は、「地元の気持ちは十分承知している。可能な限り早期にとの思いはあり、現在、上部工の設計も最終段階に入っている。

高額な工事費であり議会承認が必要だが、現在は、「計画通り取り組んでいるとしか言えない。」と親切丁寧に話をしてくれました。地元の皆様も少し安心した様子でした。



### 【5月30日～31日】市民の皆様と視察研修を行いました

市民の皆様82名と共に、県北、村上市に出向き、町おこし活動等について「村上天屋商人会副会長・小杉和也さん(現在村上市議)」から、雛人形を中心とした「町屋の人形さま巡り」や「町屋の屏風まつり」などについて詳しく説明を聞きました。今までは、行政の補助等に頼る他力本願が主体であったが、「金が無ければ、知恵をだす。体を使う。自分でできることは自分でやる。やる気のある者だけでやる。」と考え方を変えると事業が軌道に乗り出した。参加者からは「良い話を聴いた。我々も考えを変えなければ」と感想を述べていました。私も同感です。



### 【6月6日】県道の花植えに参加して

午前9時より、原通地区の県道関山停車場線沿線約1kmに、地域住民約100名が「マリーゴールド」の花を植えました。親子連れや老人などが手すきで約60cm間隔に穴を掘って、赤や黄色の帯が瞬く間に出来、皆の嬉しそうな顔がとても印象的でした。

この花植えの活動は、3年前に現地区協議会長が、私に「雑草退治に沿道に花を植えたい。」と言ってきたことが始まりでした。当時の県担当課長も、地域の自発的活動に即座に対応してくれました。作業後の冷たいお茶は、格別でした。



### 【7月1日】矢代川橋架け替え工事の課題について

関係地元役員と、県上越振興局道路課長、市建設課長等と私で現場にて県当局より、工事の進捗状況と今後の取り組みについて説明を受けた後、石塚公民館にて地元から長期工事に対する、近隣商店などへの影響などについて意見交換を行いました。県からは長期工事に対するお詫びと真剣に対応していることへの理解を説明されました。県当局の懇切丁寧な受け答えに対し地元も理解を示し、早期竣工への協力を誓い合いました。

